

保育現場との ICT を活用した情報共有における 保護者の利用実態と意識

— 紙媒体との比較および家庭での子育ての変化に着目して —

水津 幸恵* 吉田 明日香**

Parents' Usage and Awareness of the Utilization of Information Communication Technology on
Communication with Families in ECEC Settings

— Comparison with paper media and focusing on changes in childrearing —

Sachie Suizu* Asuka Yoshida**

要 旨

本研究の目的は、保育現場との ICT 活用による情報共有における保護者の利用実態と意識を、紙媒体との比較および家庭での子育ての変化に着目して明らかにすることであった。具体的には、連絡帳およびポートフォリオを電子媒体によって行うようになったこども園の保護者を対象とした質問紙調査を行い、1) 電子媒体による園との情報共有における家庭内での利用実態、2) 電子媒体の使用前後における電子媒体使用に対する意識、3) 電子媒体と比較して感じる紙媒体のメリットおよびデメリット、4) 電子媒体の使用による家庭での子育ての変化について明らかにした。その結果、電子媒体と比較しての紙媒体の特性として、同時・同空間での複数人での閲覧のしやすさがあり、気軽に家庭内で園とのやりとりや園での子どもの姿を見ながら話をするのに役立つことが明らかになった。そのため、保存機能を付加し必要に応じた印刷を可能にすることは、紙媒体のよさを補完することにつながると考えられた。次に、家庭での子育ての変化については、電子媒体の特性として、異時・異なる空間での複数人での閲覧のしやすさがあり、それぞれの媒体から自身のタイミングで必要な情報を閲覧できることは、養育者間の情報共有を円滑にし、子育てのしやすさにつながるということが明らかになった。

キーワード: 保育、ICT、保護者、連絡帳、ポートフォリオ、ドキュメンテーション、ラーニングストーリー、子育て、育児

問題と目的

保育現場において保護者との情報共有は、子どもの育ちを共に支える信頼関係を構築する上で重要となる。その方法としては、送迎時などに交わす日常的な会話や必要に応じて行う電話連絡といった直接的なやりとりに加え、おたよりや連絡帳などの書面によるやりとりが挙げられる。中でも連絡帳は、子どもの食事や排泄状況および家庭や園での様子を日常的に共有するとともに、子育て支援においても重要な機能を果たしている(丸目, 2018; 須永, 2022)。また、近年は、園における子どもの育ちや経験を具体的にとらえて写真や作品を含めながら記述したドキュメンテーションやラーニングストーリーといったポートフォリオを通して、

保育実践を子どもたちと共につくり出していくと同時に、子どもの育ちや園の実践を保護者と共有している(森, 2016)。

このような食事や排泄、体調などの情報や子どもの姿の保護者との日常的な共有は、子育て支援や子どもの育ちにおいて重要な役割を果たしている一方で、保育者の業務負担の大きさについても指摘されている。例えば、金城・安田・中田(2011)による保育者の業務負担に関する調査では、「連絡帳の作成」を3割以上の保育者が負担に感じているという結果がみられた。また、ドキュメンテーションに関する実態調査(株式会社明日香, 2022)では、実際にドキュメンテーションを行う中で6割以上の保育者が「業務が忙しくて手が回らない」と感じていることが明らかになっている。

*三重大学教育学部 **JA なごや

これに対して、近年、保育者の業務負担の効率化を目的とした ICT 導入が広がりつつあり、連絡帳およびドキュメンテーションやラーニングストーリーといったポートフォリオについても、スマートフォンのアプリケーションなどの電子媒体を通じて行われるようになってきている(守・松井, 2021; 寺島・石崎・柴田, 2022; 綿貫, 2023)。このような保護者との情報共有における ICT 活用は、保育者の文書作成における負担を軽減する(野村総合研究所, 2021)とともに、園での子どもたちの様子を撮影した写真を共有できるといった「情報量」の多さや、給食やおやつメニューの情報を保護者がタイムリーに知ることができる点など、園と保護者が子どもを共に育てるパートナーとしての関係を築く上で有益な機能を有している(秋田・宮田・野澤, 2022)。

以上のように、保育現場での ICT を活用した保護者との情報共有は、保育者の負担軽減および保育者と保護者間での関係の構築において有益であることが指摘されてきている。それでは、もう一方の主たる使用者である保護者は、ICT を活用して行われる園との情報共有についてどのように考え、家庭内においていかに活用しているのか。インターネット調査の結果では、「欠席、遅刻、延長保育などの連絡が簡単にできる」、「緊急連絡をタイムロスなく受けられる」といった園とのやりとりがスムーズになることにメリットを感じている(クオリテック株式会社, 2022)ことや、実際に使用して「使いやすい・わかりやすい」、「機能的・便利・多機能」である、「保護者のためになる(負担軽減に役立つ)」といった好意的な印象を持っている(ユニファ株式会社, 2022)といった結果があるが、保護者に対して行った詳細な調査研究はあまり行われていない。特に、紙媒体でのやりとりが主流であった連絡帳をはじめとする書面でのやりとりが電子媒体で行われることになるという変化に際しての保護者の意識や、紙媒体が有していた電子媒体と比較しての保護者にとってのメリットやデメリットは明らかにされていない。また、従来、紙媒体での連絡帳における家庭での記入者は、父親が中心となっていくこともあるが(e.g., 林, 2015)、ほとんどは母親であったことがうかがえる(e.g., 伊藤, 2021; 須永, 2022)。連絡帳が電子媒体になることによって、園とのやりとりを場所や時間を問わずに複数人で同時に行えることは、養育者間で連携して子育てを行うことを円滑にし、家庭での子育てに変化をもたらす可能性が考えられるが実際のところは明らかになっていない。

そこで本研究では、保育現場での ICT 活用による保護者との情報共有における保護者の利用実態と意識を、紙媒体との比較および家庭での子育ての変化に着目し

て明らかにすることを目的とする。具体的には、保護者への質問紙調査を行い、1) 電子媒体による園との情報共有における家庭内での利用実態、2) 電子媒体の使用前後における電子媒体使用に対する意識、3) 電子媒体と比較して感じる紙媒体のメリットおよびデメリット、4) 電子媒体の使用による家庭での子育ての変化について明らかにする。

方 法

1. 協力園

三重県内にある私立 A 認定こども園の保護者を対象として 2022 年 10 月に質問紙調査を行った。

まず、当該園の連絡帳は、0・1・2 歳児が主な対象であり、園との情報共有のためのアプリケーション(CoDMON(コドモン))を通じ、電子媒体によって行われている。連絡帳の頻度は、2 歳児は子どもの園での様子を中心に週 1 回以上、0・1 歳児は体調面を含む子どもの園での様子について毎日行われている。なお、紙媒体から電子媒体への移行の時期は、2 歳児は 2020 年、0・1 歳児がその翌年の 2021 年であった。つまり、調査を行った 2022 年時点において、当該園には、紙媒体から電子媒体への移行期においてその両方の媒体による連絡帳を経験した家庭が在籍していた。

次に、ポートフォリオは、3・4・5 歳児においては連絡帳と同じアプリケーションの「保育ドキュメンテーション」の機能を用いて、電子媒体によって随時(月に 1~2 回程度)配信が行われている。0・1・2 歳児においては、ラーニングストーリーを参考に、子ども 1 人に対して 1 冊のファイルを用意し、月に 1 回パソコンで作成したものをプリントアウトして紙媒体で手渡ししており、電子媒体による配信は行っていない。いずれも 2018 年から開始され、調査を行った 2022 年時点において当該園には、紙媒体と電子媒体の両方のポートフォリオを経験した家庭が在籍していた。

以上のように、電子媒体と紙媒体のどちらも経験している家庭が在籍していることから、当該園を調査対象とすることにした。

2. 調査方法

質問紙を 2022 年 10 月 1 日から 10 月 31 日までの 31 日間に 213 部配付し、123 部回収した(回収率 57.7%)。質問項目は、電子媒体による園との情報共有における家庭内での利用実態、電子媒体の使用前後における電子媒体使用に対する意識、電子媒体と比較して感じる紙媒体のメリットおよびデメリット、電子媒体の使用による家庭での子育ての変化などを中心に質問項目を計 25 項目作成した。なお、回答者が特定されないよう匿名回答とし、倫理的配慮を行った。

結 果

1. 回答者の属性と家庭内での利用実態

(1) 属性

回答者の属性を表1に示す。回答者は母親が89.4%、父親が10.6%で母親の割合が高かった。回答者の年齢は、20代が8.1%、30代が61%、40代が29.3%、50代および無記入がそれぞれ0.8%であった。就業形態は、常勤（フルタイム）が32.5%で最も多く、次いでパート・アルバイトが26.8%、専業主婦が24.4%であった。そのほか、自営が3.3%、休職中が4.9%、求職活動中が0.8%、その他が7.3%であった。子どもの人数は、2人が52%で最も多く、次いで1人が27.6%、3人が18.7%、4人と無記入がそれぞれ0.8%であった。子どもの同居家族の構成は、母親・父親が76.4%で最も多く、次いで母親・父親・祖父母（親戚含む）が13.8%であった。母親のみは5.7%、父親のみは0.8%、その他は3.3%であった。

表1 回答者の属性

		n(123)	%
子どもとの関係	母親	110	89.4
	父親	13	10.6
回答者の年齢	20代	10	8.1
	30代	75	61
	40代	36	29.3
	50代	1	0.8
	無記入	1	0.8
就業形態	常勤（フルタイム）	40	32.5
	パート・アルバイト	33	26.8
	自営	4	3.3
	専業主婦	30	24.4
	休職中	6	4.9
	求職活動中	1	0.8
	その他	9	7.3
子どもの人数	1人	34	27.6
	2人	64	52
	3人	23	18.7
	4人	1	0.8
	無記入	1	0.8
子どもの同居家族の構成	母親・父親	94	76.4
	母親・父親・祖父母 (親戚含む)	17	13.8
	母親	7	5.7
	父親	1	0.8
その他	4	3.3	

(2) アプリケーションのインストール状況

まず、子どもの同居家族のうち、園との情報共有のためのアプリケーションをインストールしている人の子どもとの関係ごとの割合を図1に示す。インストールをしているのは、母親が100%（121人中121人）であった。父親は62.5%（112人中70人）であった。また母方の祖母が12人中5人、母方の祖父と父方の祖母が7人中1人、父方の祖父は6人中0人、親戚は2人中0人であった。

次に、同居していない家族のアプリケーションのインストール状況は、父親が5人、母方の祖母が11人、

母方の祖父が4人、父方の祖母が3人、父方の祖父が2人、おじ・おば・いとこなどの親戚が1人であった。

これらのことから、同居家族のうち母親は全員がアプリケーションをインストールしているのに対して父親は6割程度に留まっていることが明らかになった。祖父母については、母方の祖母がインストールしている割合が他の祖父母に比べて高かった。また、同居していない家族については、離れて暮らす父親や母方の祖母が多くインストールしていることがわかった。

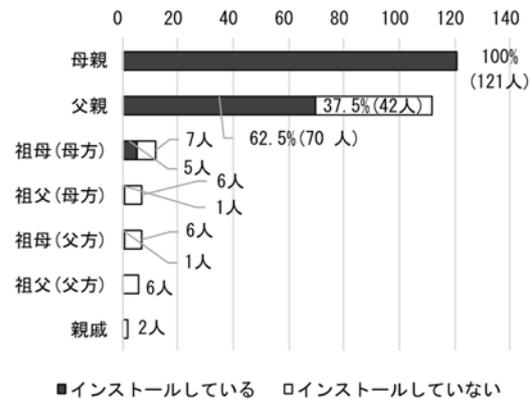


図1 アプリケーションのインストール状況

(3) 連絡帳の記入状況

連絡帳を記入している人は、母親のみが75.4%（89人）で最も多く、次いで、母親・父親が18.6%（22人）、父親のみが2.5%（3人）、母親や父親に加えて祖父母も記入しているのが2.5%（2人）であった。このことから、電子媒体による連絡帳の主な記入者は母親であることが明らかになった。

記入に要する時間は、「5分未満」が80.5%（95人）、「5分以上10分未満」が17.8%（21人）、「20分以上」が0.8%（1人）、「無記入」が0.8%（1人）であった。このことから、8割以上の保護者が5分未満という短い時間で記入していることが明らかになった。

(4) ポートフォリオの閲覧状況

電子媒体によるポートフォリオの閲覧者は、母親が96人、父親が63人、母方の祖母が14人、母方の祖父が5人、父方の祖母が3人、父方の祖父が2人、親戚が2人であった。このうち、アプリケーションをインストールしている割合は、母親が99%（95人）、父親が81%（51人）、母方の祖母が78.6%（11人）、母方の祖父が40%（2人）、父方の祖母が66.7%（2人）、父方の祖父は0%（0人）、親戚が50%（1人）であった。このことから、アプリケーションをインストールしていない場合も、画面を見せるなどして家庭内で閲覧していることがうかがえた。

2. 電子媒体の使用前後における意識の変化

(1) 連絡帳における電子媒体使用当初と現在の考え方

連絡帳における電子媒体の使用当初と現在の考え方を図2に示す。「電子媒体に抵抗がある」と回答した人の割合は、使用当初が16.3% (20人)、現在は3.3% (4人)であり、減少していた。「電子媒体は便利だと感じる」と回答した人の割合は、使用当初が60.2% (74人)、現在が73.2% (90人)であり、いずれも6割以上を占めていたことが明らかになった。「どちらともいえない」は使用当初も現在も17.1% (21人)であり、占める割合に変化はなかった。無記入はいずれも6.5% (8人)であった。

使用当初、「電子媒体に抵抗がある」と回答した20人のうち、まず、現在も同様に「電子媒体に抵抗がある」と回答した人は3人であり、その理由としては「物として手元に残らない」、「紙の方が先生とやりとりできている実感がある」などがあつた。次に、「電子媒体は便利だと感じる」に回答が変化した人は9人であり、その理由としては「慣れた」、「時間の短縮になる」、「時間に関係なく連絡ができる」、「家でなくても書ける」などがあつた。そして、「どちらともいえない」に回答が変化した人は8人であり、その理由としては「少し慣れたが手書きの気軽さはない」、「便利ではあるが紙のほうが先生との距離を近くに感じる」などがあつた。

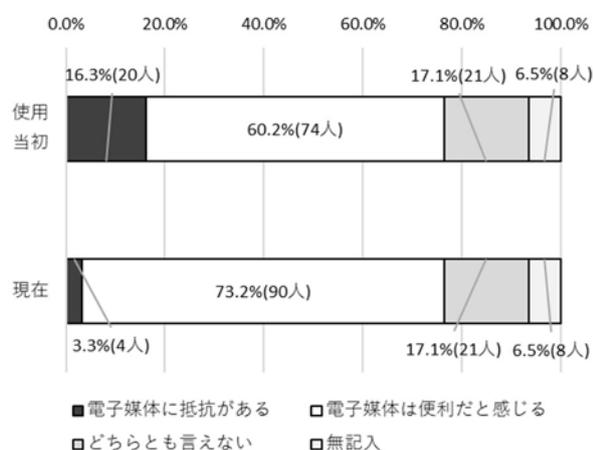


図2 連絡帳における電子媒体使用当初と現在の考え方

(2) ポートフォリオにおける電子媒体使用当初と現在の考え方

ポートフォリオにおける電子媒体の使用当初と現在の考え方を図3に示す。「電子媒体に抵抗がある」と回答した人の割合は、使用当初が12.1% (12人)、現在は3% (3人)で減少していた。「電子媒体は便利だと感じる」と回答した人の割合は、使用当初が59.6% (59人)、現在が69.7% (69人)であり、いずれも半数以上を占めていたことが明らかになった。「どちらともいえない」

は使用当初が20.2% (20人)、現在が19.2% (19人)で変化はほとんどなかった。無記入がいずれも8.1% (8人)であった。

使用当初、「電子媒体に抵抗がある」と回答した12人のうち、まず、現在も同様に「電子媒体に抵抗がある」と回答した人は2人であり、その理由としては「物として手元に残らない」、「親子で見られず楽しめない」などがあつた。次に、「電子媒体は便利だと感じる」に回答が変化した人は5人であり、その理由としては「家でなくても見られる」、「日々の情報が紙よりも逐一届く」などがあつた。そして、「どちらともいえない」に回答が変化した人は5人であり、その理由としては「たくさんさんの写真が見られるのはいいが、祖父母への共有は紙の方がしやすい」、「先生の負担が減っているのならいいと思うが、紙の時の方が見応えがあつた」など、0・1・2歳児の時に受け取っていた紙媒体のポートフォリオと比較しての意見があつた。

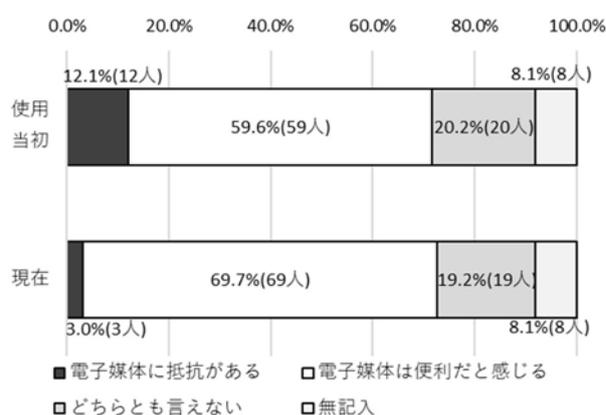


図3 ポートフォリオにおける電子媒体使用当初と現在の考え方

3. 電子媒体と比較しての紙媒体への意識

(1) 電子媒体使用時に感じる紙媒体への意識

まず、電子媒体使用時に紙媒体にメリットを感じるかどうかについては、「感じる」が59.7% (71人)、「感じない」が40.3% (48人)であった。電子媒体使用時に紙媒体にデメリットを感じるかどうかについては、「感じる」が54.1% (60人)、「感じない」が45.9% (51人)であった(無記入の8人は分析から除外した)。

次に、紙媒体使用経験の有無(紙媒体使用経験あり69人、使用経験なし50人)によって、電子媒体使用時に感じる紙媒体への意識が異なるかを分析した結果、紙媒体にメリットを感じるかどうかについては、「感じる」が紙媒体使用経験あり50人、経験なし21人、「感じない」が紙媒体使用経験あり19人、経験なし29人であった。紙媒体にデメリットを感じるかどうかにつ

いては、「感じる」が紙媒体使用経験あり 45 人、経験なし 15 人、「感じない」が紙媒体使用経験あり 22 人、経験なし 29 人であった。カイ二乗検定の結果、紙媒体のメリットとデメリットのどちらについても、紙媒体使用経験ありの方が使用経験なしよりも「感じる」と回答した人が多いことがわかった（メリット： $\chi^2(1)=11.70, p<.001$ ；デメリット： $\chi^2(1)=11.18, p<.001$ ）。このことから、紙媒体使用経験がある方が使用経験なしよりも、電子媒体使用時に紙媒体のメリットとデメリットの両方を感じていることがわかった。

(2) 紙媒体のメリット

電子媒体使用時に紙媒体にメリットを感じると回答した人に対して、どのようなメリットを感じるか、自由記述で得た回答の記述内容から内容のまとまりを抽出し、似ているもの同士を分類してカテゴリー化した結果を表 2 に示す。紙媒体のメリットとして、「確認しやすい」、「手元に残る」、「温かみがある」、「共有しやすい」、「見返ししやすい」が挙げられた。

表 2 紙媒体のメリット

確認しやすい	
大事な連絡は紙のほうが覚えやすい。	20
家の中に掲示してふとした時に見やすい。	
一覧性がある。	
見比べる(並べる)ことができる。	
カレンダーなどに予定を書きし写す際、紙媒体の方がどこまで書いた等チェックを入れられ、間違いや見落としが起きにくい。	
手元に残る	
手元に残っているので振り返りきっかけとなる。	18
手元に残るので予定を確認しやすい。	
物として残るので思い出になる。	
温かみがある	
手書きのほうが温かみを感じる。	9
先生が書いてくださった連絡帳はやっぱり温かみがあり、今でも大事にとってあります。	
読む嬉しさがあった。	
共有しやすい	
家族皆で見て話すときに見やすい。	8
電子機能が苦手な祖父母と共有しやすかった。	
子どもが大きくなったときに渡せる。	
見返ししやすい	
読み返しがすぐにはできる。電子媒体だといつかがわからなくなりすぐに見たい時に探すのに苦労する。	4

(3) 紙媒体のデメリット

電子媒体使用時に紙媒体にデメリットを感じると回答した人に対して、どのようなデメリットを感じるか、自由記述で得た回答の記述内容から内容のまとまりを抽出し、似ているもの同士を分類してカテゴリー化し

た結果を表 3 に示す。紙媒体のデメリットとして、「保管や処分が大変」、「手書きは面倒・時間がかかる」、「紛失しやすい」、「すぐにやりとり・確認ができない」、「保育者の負担になる」、「紙がもったいない」が挙げられた。

表 3 紙媒体のデメリット

保管や処分が大変	
保管や処分するのが大変かさばる。	20
プリントの処分時期や方法に悩む。	
手書きは面倒・時間がかかる	
手書きが面倒	19
書くのは電子媒体に比べると時間がかかる。	
手書きで連絡帳を書くとなると、はしり書きでは読めないと困るため、朝の忙しい時間帯に丁寧に書くため時間を取られる。	
紛失しやすい	
紙媒体は紛失したときに見返すことができなくなり困る。	6
どこにおいたかわからなくなるときがある。	
すぐにやりとり・確認ができない	
返信が当日中にない。	4
出先(仕事を含む)にいるとすぐに連絡帳が確認できない。	
保育者の負担になる	
先生が手で書くのは大変だろうと思う。記入の時間を子どもと触れ合う時間にもしてもらえばいい。	4
先生が保育時間に確認し、返事を書くのは大変だと紙の連絡帳のときは思っていました。	
紙がもったいない	
紙がもったいない。	2
ペーパーレスになってない。	

(4) 電子媒体に求める機能

電子媒体に求める機能について自由記述によって回答を求めた結果、123 人中 38 人から記述があった。この自由記述で得た回答の記述内容から内容のまとまりを抽出し、似ているもの同士を分類してカテゴリー化した結果を表 4 に示す。電子媒体に求める機能として、「保存機能」、「検索機能」、「拡大機能」、「発信機能」、「ブックマーク機能」、「既読確認機能」、「修正機能」が挙げられた。最も多かったのは「保存機能」で、写真を自身の媒体に保存したいという意見や、ドキュメンテーションといったポートフォリオについてはダウンロードして印刷し、紙媒体として残したいという意見が挙げられた。また、インターフェイスに関する機能として、検索、拡大、ブックマーク、修正といった機能の希望が挙げられた。さらに、「発信機能」や「既読確認機能」など、園とのやりとりの手ごたえが感じられる機能を求める意見が挙げられた。特に、ポートフォリオに対して家庭からコメントを送信したり、家庭からも写真付きのコメントを園に送信したりしたいという意見が挙げられた。

表4 電子媒体に求める機能

保存機能	
送付される写真を保存できるようにしてほしい。	
ドキュメンテーションも気軽にダウンロードし自宅等で印刷できると良いと思います。	12
先生からいただく毎日の記録などは思い出として(物として)手元に残したい。	
検索機能	
さかのぼって確認したいことがあるときは不便。フレーズ検索の機能があると嬉しい。	7
拡大機能	
写真を送ってもらっても小さくて見えない時があるので写真を拡大できるようにしてもらいたい。	6
発信機能	
こちらからもドキュメンテーションを送信する機能。	
先生からのコメントに返信ができる。親側からの写真付きのコメントができる機能。	4
ブックマーク機能	
大切な書類をお気に入りのできる機能。	4
既読確認機能	
園から家庭での連絡帳は確認済ボタンがあるが、家庭から園に記入した場合に読んでもらったのかわからないので、同じように確認ボタンが欲しい。	2
修正機能	
一旦送った内容が間違えていたり、取り消したいとき、キャンセル連絡や通知があるといい。	2
その他	
体調面の定型文、重要な文にマーカーをかける機能	
カレンダーなど園のイベントを書き込んでほしい。カレンダーを共有して通知設定ができれば尚いい。	5
園用品もコドモンから購入できると便利です。	

4. 電子媒体による家庭での子育ての変化

まず、園との情報共有が電子媒体となり家族が複数人で情報を閲覧できるようになったことでパートナーの子育てへの参加が高まったと感じるかどうかを「かなり感じる」、「やや感じる」、「あまり感じない」、「感じない」の4件法で尋ねた。その結果、「あまり感じない」が35.6% (42人)、「感じない」が18.6% (22人)であった。一方、「やや感じる」が29.7% (35人)、「かなり感じる」が16.1% (19人)であり、電子媒体の活用によってパートナーの子育てへの参加が高まったと感じるかどうかはほぼ半々であり、高まったと感じていない方がやや上回っていた。

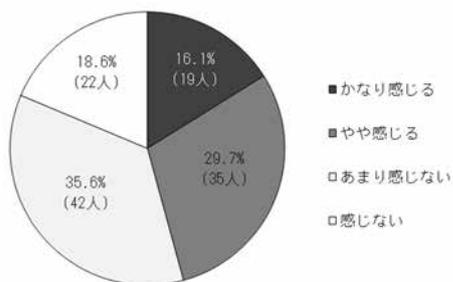


図4 パートナーの子育てへの参加の高まり

次に、電子媒体の活用によってパートナーの子育てへの参加が高まったと「かなり感じる」、「やや感じる」と回答した人がそれを感じた具体的な場面について、自由記述で得た回答の記述内容から内容のまとまりを抽出し、似ているもの同士を分類してカテゴリ化した結果を表5に示す。具体的な場面としては、「養育者間での情報共有」が最も多く挙げられ、家庭内において複数人で園からの情報を確認しており、それを通して養育者間で園や園での子どもの様子について話をしていることがとらえられた。次いで、「子どもとの関わり」では、園からの情報を子どもとの関わりに活かしていることがとらえられた。最後に「養育者間での協力体制」として、園とのやりとりにおける家庭側からの入力を協力して行っているケースは5件と少数であることがわかった。

表5 子育てへの参加の高まりを感じた場面

養育者間での情報共有	
両親ともに見るので情報共有ができています。	
お互い同じタイミングで行事の詳細や活動内容を知ることができるので説明が省ける。	
生活リズムの違いからゆっくり話す時間がないときにも情報を共有できて短い時間で済む。	
こちらから伝えなくても連絡事項に目を通してきている。	
園からの連絡事項をすぐに伝えることができ、行事がある日に参加できるよう予定を空けておいてもらえることが増えた。	26
パパも保育園の様子を共有してくる。	
先生の名前と顔を覚えている。	
保育園からの連絡帳やお誕生日会のお便りなどを楽しみに見ている。仕事が終わったらすぐにチェックしているようです。	
幼稚園での出来事を写真を見ながら話すことが多い。	
家族がストーリーを見てくれていて、子どもの園での生活に興味があるんだと感じ、嬉しく思った。	
祖母が共有しているので毎日園の様子を知ることができて喜んでいる。	
子どもとの関わり	
ご飯をしっかり食べたか、お昼寝をたっぷりしたか確認してくれている。お昼寝をあまりしていない時は早めに仕事を切り上げて帰ってきてくれる(お風呂呂に入れる係なので)。	
園での過ごし方をみて子どもによく話かけている。	
子どもとのコミュニケーションの中でその日の出来事を聞いたりしていた。年齢が低いので子どもの言葉で伝わりにくい出来事を電子化で気軽に見れることで詳しく話を聞こうとする姿が見られた。	15
最初は電子化されても自主的に見てくれなかったが、園からの連絡(特にイベント)がほとんど電子になってからは、自分で見ないと私と子供の会話についていけないと思ったらしく、自主的に見るようになった。また、写真をアップしてもらえるので、写真を見たくて見ているよう。	
養育者間での協力体制	
父・母・祖母の三人で共有できるので、一人で管理することもなくなり、フォローしてもらえるのですごくよかったです。	
パパも連絡帳の入力に協力してくれるようになった。	5
もともと協力的だが、連絡帳など書くことが夫は得意でないように入力になってからはさらに積極的にしてくれて助かる。	

考 察

(1) 紙媒体のよさをふまえた電子媒体の活用

園とのやりとりが紙媒体から電子媒体で行われることになるという変化に際しての保護者の意識や、紙媒体が有している電子媒体と比較しての保護者にとってのメリットやデメリットについて検討した結果、紙媒体のよさをふまえた電子媒体の活用において求められる機能として特に挙げられたのが「保存機能」であった。これは写真などのデータを自身の媒体に保存するとともに、それを紙媒体に印刷したいという希望からであった。その理由としては、思い出として残したいという思いとともに、家族みんなで見て話すときに見やすいといった共有のしやすさ、複数のページの見返しやすさ、並べて見比べることができるといった一覧性の高さが挙げられた。

このことから、紙媒体の特性として、同時・同空間での複数人での閲覧のしやすさが指摘できる。その場で手に取ってすぐ、複数人で複数のページを一緒に見やすいことは、気軽に家庭内で園とのやりとりや園での子どもの姿について話をするのに役立つといえる。また、物として残ることは、思い出として大切にされるとともに、長期的な閲覧のしやすさから何度も見返すという「再訪 (revisiting)」（Carr & Lee, 2019; 松井, 2021）をもたらす。これらのことから、アプリケーションによっては保存機能を付加し、保護者による必要に応じた印刷を可能にすることが、紙媒体のよさを補完することにつながると考えられる。

(2) 家庭での子育てにおける活用の実態

電子媒体による園との情報共有における家庭内での利用実態や、電子媒体の使用による家庭での子育ての変化について検討した結果、アプリケーションのインストール率には母親と父親に差があること、そして園とのやりとりの家庭側の記入者は母親であることがほとんどであることが明らかになった。そのため、電子媒体の活用によってパートナーの子育てへの参加が高まったとは感じない割合が半数を占めたと考えられる。一方で、高まったと感じている場合の具体的な場面を見ると、時間や場所を問わずに各々で園とのやりとりを閲覧できることによって、養育者間での情報共有が円滑になっていることがうかがえた。

このことから、電子媒体の特性の一つとして、異時・異なる空間での複数人での閲覧のしやすさが指摘できる。それぞれの媒体からいつでもどこでも自身のタイミングで必要な情報を閲覧でき、また即時的なやりとりも可能であることは、養育者間の情報共有を円滑にし、子育てのしやすさにつながるといえる。

ただし、本研究の結果からは、電子媒体のこの特性

が子育ての仕方に変化を直接もたらすというよりも、子育てを共に行おうとする使用者がこの特性を活かしたことによってその変化がもたらされていることがうかがえた。家庭での子育ての分担について、国立社会保障・人口問題研究所（2018）が行う全国家庭動向調査では、2008年以降、母親が8割前後、父親が2割前後という分担の割合がほぼ横ばいで推移している。最新の2022年度の調査では母親が分担する割合が78.0%と過去最低となり、母親の育児分担の割合は低下傾向にあるものの、依然として70%を超える水準にあることから、子育てを共に行おうとする意識を醸成することがまず求められるといえる。これに関して、本調査の結果からは、電子媒体を通して園とのやりとりが届くことやそれが楽しみになることによって、家庭において養育者が共に積極的に子育てを行っていくとするきっかけとなっていることもうかがえた。そのため、まずは養育者がそれぞれにアプリケーションのダウンロードを積極的に行うことが必要であると考えられる。

課 題

本研究の課題を2点挙げる。

1点目について、今回は情報共有を紙媒体から電子媒体へと移行した園の保護者を対象とすることによって、使用前後の意識の変化や紙媒体と電子媒体を比較しての意見を得ることができた。しかしながら、対象とした園では、電子媒体にすでに移行済であることから今後の電子媒体の使用が前提となっており、電子媒体に対する批判的な意見や紙媒体を求める意見が出にくかった可能性がある。

2点目は、各家庭につき1人に対して質問紙調査を行ったことにより、回答者が一方の養育者に偏ったことである。そのため、本研究は、主に母親からみたパートナーの子育てへの参加の高まりの有無から子育ての変化をとらえるに留まった。そのため、父親をはじめとするあらゆる養育者本人の意識については明らかにできていない。

これらの課題について、今後の調査が必要とされる。

引用文献

- 秋田喜代美・宮田まり子・野澤祥子 (2022). ICTを使って保育を豊かに: ワクワクがつながる&広がる 28 の実践. 中央法規出版.
- Carr, M. & Lee, W. (2019). *Learning Stories in Practice*. SAGE Publications.
- 林悠子 (2015). 保護者と保育者の記述内容の変容過程にみる連絡帳の意義. 保育学研究, 53, 78-90.
- 伊藤優 (2021). 育児に困難を有する保護者への支援に関する検討: 「食事の連絡帳」の記述から. 日本家政学会誌, 72, 333-

347.

- 株式会社明日香 (2022). 「保育ドキュメンテーション」に関する実態調査. (<https://www.g-asuka.co.jp/job-info/topics/18672.html>, 2022年1月18日取得)
- 金城悟・安見克夫・中田英雄 (2011). 保育職の大変さとやりがいに関する保育者の意識構造について: M-GTA による分析の試み. 東京成徳短期大学紀要, **44**, 25-44.
- 国立社会保障・人口問題研究所 (2018). 第6回家庭動向調査.
- 松井剛太 (2021). ラーニングストーリーと保育記録. 発達, **167**, 30-36.
- 丸目満弓 (2018). 乳児保育における保護者支援研究 (1): 連絡帳の記述文字数及び保育士-保護者間の応答率の分析. 大阪総合保育大学紀要, **12**, 73-84.
- 森真理 (2016). ポートフォリオ入門: 子どもの育ちを共有できるアルバム. 小学館.
- 守巧・松井剛太 (2021). 保育現場の子育て支援における e-ポートフォリオの効果と導入可能性に関する研究. こども教育宝仙大学紀要, **12**, 37-45.
- 野村総合研究所 (2021). 令和2年度ロボット・AI・ICT等を活用した保育士の業務負担軽減・業務の再構築に関する調査研究.
- 須永真理 (2022). 自己主張期の子どもをもつ保護者に対する連絡帳を用いた子育て支援に関する研究. 保育学研究, **60**, 69-80.
- 寺島正博・石崎龍二・柴田雅博 (2022). 保育所・認定こども園における ICT 導入の実績とそれに伴う業務効率の意識: A 県におけるアンケート調査を通じて. 福岡県立大学人間社会学部紀要, **31**, 57-70.
- ユニファ株式会社 (2022). 「園選び」に関する実態調査. (<https://unifa-e.com/news/release/entry-394.html>, 2023年11月14日取得)
- 綿貫文野 (2023). 保育現場における ICT ツールを活用した連絡帳の実態に関する研究. 東京経営短期大学紀要, **31**, 81-90.
- クオリテック株式会社 (2022). 「保育 ICT の実態」に関する調査. (<https://ict-enews.net/2022/05/20q-tec/>, 2023年11月14日取得)

付記

本論文は、第二著者による三重大学教育学部 2022 年度卒業論文で得られたデータの一部を再分析し、新たに論を展開したものです。ご協力いただいた保護者のみなさま、園の先生方に感謝申し上げます。